

## 市民の暮らしの実態に 真剣に向き合う市政に



日本共産党国分寺市議団 岡部 宏章

### ＜市民の暮らしの実態と市長の政治姿勢＞

岡部：日本共産党市議団が実施した市民アンケートで暮らし向きについて「苦しくなった」と答えた方が72%にも及ぶという実態だ。市長の政治姿勢には市民の暮らしに思いをめぐらすという最も重要なことが根本的に欠けている。

### ＜国政の問題について市長の見解を問う＞

岡部：アベノミクスは国民の暮らしよりも大企業のほうを向いた政策。内需拡大で経済の好循環を創り出すためには賃金の引き上げが必要。

市長：労働者の賃金、雇用の確保は自治体としても後押しをしていくべきだと考えている。

岡部：消費税に頼らなくても社会保障を充実し財政も建て直す道がある。税金の無駄遣いや大企業への行き過ぎた優遇税制を見直す事など。当面は8%への増税を中止するべき。

市長：少子高齢化を迎えてこれからの出生、子育て、高齢者へ財源投入のため消費税アップを凶っていかねばならない。

岡部：これまでの政府解釈でも憲法上禁止されているとされてきた集団的自衛権を容認しようとしていることは極めて重大な問題だ。

市長：きちんと憲法を守り平和を希求していくということで市のスタンスは従来から踏襲されている。私としても堅持していくつもり。

### ＜市政の諸問題＞

岡部：市は高齢者の地域生きがい交流事業を責任もって運営し今後も守っていくと約束すべき。高齢者の入浴事業は再開を。

市長：入浴事業は既に廃止されてそれで高齢者の交流事業はまったく無くなったということではなく地域生きがい交流事業も含めてそれ以外でも高齢者の相互の交流を図れる。

岡部：深刻化する孤立死の問題などに対応し高齢者を支える施策を拡大していくべきだ。

市長：民生委員や町内会など地域の見守りや繋がり、地域福祉計画（現在市が作成中）によってケアを充実させる。

岡部：国保税の滞納のために保険証を受け取れていない世帯が373世帯（昨年10月時点）もある。今でさえ高すぎる国保税を更に値上げして加入者に負担を求めるのは絶対に容認できない。国からの補助金を予算上で過大に見積もり、その分、市による国保会計への補助である「その他繰入金」は少なくとも済むように見せかけてきたことはもはや明確だ。

市長：国保財政の厳しさの原因は高齢化を迎えるなかで医療給付費がふえているため。26年度にあたってはご負担を上げていただくということ、併せて、一般財源からの繰入れもふやす。

岡部：保育園の0歳・1歳児の待機児童は138名（昨年9月時点）おり、現在の対応だけではゼロには出来ない。更なる対策を。

市長：保育の充実を図っていくことは市としてもやっぴいかなければならない。

岡部：公設公営園を民営化することを含む保育「全体計画」を見直し、公設公営園を維持すべき。

### ＜市民の暮らし第一の市政に転換を＞

岡部：市民の福祉・教育をたな上げし、その一方で今後も道路建設はじめ開発型事業優先の姿勢を続けようとしていることは明白だ。これ迄

のように北口再開発が計画されるなかで市民の暮らしを支える様々な施策を削るということは絶対に繰り返してはならない。

市長：いま国分寺の都市計画の道路整備率は非常に低い状況にある。まずは幹線道路の整備を行なったうえで狭隘な生活道路の解消を図っていくことが今後必要。

この他、学校施設の修繕やごみの減量・資源化について質問を行ないました。

## 多様な観点から 生活困窮者支援を！



国分寺・生活者ネットワーク 高瀬 かおる

問) 福祉施策の充実として、市民が気軽に相談しやすく、相談の対象者や相談内容を限定しない福祉の総合相談窓口の設置を求める。

市長) 相談内容が、福祉の問題だけでなく多岐にわたると思うので、総合相談のような窓口を、地域福祉計画策定委員会等でも検討していく必要があると感じており、対応を図っていききたい。

問) 市民が一番利用しやすい総合相談窓口について調査し、計画策定後には速やかな設置を！

問) 健康施策について、施政方針にはがん検診、歯科健診の説明しかない。食生活の改善、体力保持、適切な医療、ストレス軽減、まちづくりや自然環境の整備、健康づくりに取り組む市民活動を支援することで個人が自主的に取り組める状況をつくる等、様々な観点から市民の健康を守る方向性を示すことが必要ではないか。

H26年度の健康づくりの取り組みについて伺う。

市長) 若い世代へ健康づくりのアプローチをしていききたい。東京経済大学と連携し、自分に合った食事量やバランス、貧血予防や朝食の取り方、市で行う保健事業等、情報提供を行う。

問) 健康増進計画策定過程においては、「健康な状態とは何か」という理念を明確にした上で、必要な施策を組み立てていただきたい。

問) 生活困窮者自立支援法施行に先駆け市ではモデル事業を実施。困窮の原因は失業等の雇用環境のみならず、疾病や障がいなど本人の抱えている様々な課題、母子家庭や高齢のひとり暮らしという女性特有の問題等、個人ではなかなか解決できない状態がある。また伴う課題として、貧困の連鎖等子どもたちへの影響や社会的な孤立も指摘されており、支援の方法は多様であるべきだ。モデル事業では他の自治体の参考となるよう、想定したもの以外にも必要な事業を探り本施行に向け充実を図っていただきたい。

市長) 自立相談支援事業及び学習支援事業を社協に委託し行っている。しっかりとした仕組みを作っていきたい。地域の支援が不可欠なことから地域の社会資源との連携を深めていきたい。

問) これまでも、行政と市民、また、市民団体やNPO、事業者や大学等が連携を図っていく協働のまちづくりを求めてきた。地域では企業のCSRも含めて多様な主体者による様々な地域貢献の取り組みや地域に必要なしくみづくりがなされている。行政機関だけが公共を担うのではなく国分寺市版の新しい公共をつくっていただきたいが、どのような取り組みをされるのか。

市長) 市民満足度の高い新しい公共を構築していくためには、多様な団体との協働が必須だ。50周年事業、地域福祉に向けて、各部署ごとに案を持っているので精査して進めてまいりたい。

問) ロケーションボックスは、観光資源、地域

資源と連携して取り組むことが効果的であり、まちの魅力発信という観点からも経済課から市政戦略室に移していただきたい。

市長) まさに今回の機構改革で市政戦略室にまちの魅力発信担当を設けたのはそういう意味だ。

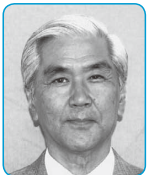
問) 専門的な職種を担う嘱託職員の質を高め、継続的に業務を担っていただくための一つの解決策として、担う業務に対する適正な待遇と報酬を求めてきたが、改善に向けたお考えをきく。

市長) 専門職については、他市の状況を見ながら対抗できる形の待遇にしていかなければならないと思っている。また、休暇制度等についても新制度の導入を予定している。

問) 市民のために質の高いきめ細やかで創造的な業務を担っていただくためには、働きやすい職場環境への改善が必要で、仕事と生活のバランスをとっていくことが大事だがいかがか。

市長) ワークライフバランスを本当に大事にしていかなければならないと思う。職員の心や体の健康状態を確保する待遇改善を図っていく。

## 行政の重大ミスを 根絶する市政の実現を



無会派（社民党） 釜我 健二

釜我＝市長は施政方針において、わが国の経済動向を「明るさが見えつつある」としているが実質賃金の低下に見られる通り、現実はずっと厳しい。もっとシビアに分析する必要がある。

市長＝いろいろな解釈はある。それらが市財政にどう影響するかを慎重に検討してまいりたい。

釜我＝前市長の末期に行政の重大ミスが続発した。井澤市政の重要課題の一つは重大ミスの根絶だと思ふ。しかし、施政方針にその記述がない。方針に明記して市民に約束をすべきだった。

市長＝ぜひ早い時期に、ミスがゼロという目標が実際に掲げられるようにしていきたい。

釜我＝図書館・公民館のアウトソーシング（委託化）について教育委員会の結論が出ている。市民と職員が築いてきた運営のノウハウは市の財産だ。行政として守るべき一線があるはずだ。

市長＝私はアウトソーシングありきではない。今まで蓄積した市としてのノウハウを生かすよう注意してやる必要がある。

釜我＝現政権は教育委員会制度を改め（仮）総合教育施策会議の設置等首長の教育への介入強化を目ざしている。教育長の教育者として見解は。

教育長＝市長と教育委が距離を置くのはいい制度だ。改革は教育にプラスになることが前提だ。

### 次の定例会開催予定

#### 市議会を傍聴してみませんか

平成26年第2回定例会は、6月2日（月）から開会の予定です。

議会はどなたでも傍聴できます。審議に関連する資料も自由に閲覧できますので、ぜひこの機会に市議会を傍聴していただきますようお願いいたします。

※本会議は市役所第1庁舎3階議場で、委員会は同委員会室で、午前9時30分から開始予定です。

### 音声配信について

市議会では、平成26年2月23日に行われた第1回定例会「代表質問」の模様を、国分寺市議会のホームページで音声配信しております。ぜひご活用ください。